

ですから、あなたがたはこう祈りなさい。「天にいます私たちの父よ。・・・」

マタイ 6 章 9 節

祈りについて、イエス様は隠れた所で祈る様にと教えられました。人前で祈ろうが、個室で祈ろうが、ただ神様に向かって祈る事が大切なのです。

「天にいます私たちの父よ。」という呼びかけで主の祈りは始まります。

主の祈りの最初のことばは①「天にいます」②「私たちの」③「父よ」の3つから成り立っています。ところが、この最初のことばについてですが、

——— ①「父よ」 ———

原文で最初に出て来ることばは「父よ」なのです。イエス様は、まず「父よ」と呼びかけるようにと教えています。

旧約聖書では、「神様はイスラエルの父である」と語られていますし、今までユダヤ人たちが「父よ」と祈る事がなかったわけではありません。

例えば、(イザヤ 64:8)「しかし、今、主よ、あなたは私たちの父です。・・・」

しかし、ここで主イエス様ご自身が「父よ」と祈られたことばは、アラム語の「アバ」でした。

(マルコ 14:36)「アバ、父よ、あなたは何でもおできになります。・・・」

これは乳離れした幼児が最初に覚えることばの一つです。主イエスは父なる神様に「パパ」とか「お父ちゃん」と呼びかけられたことになります。しかし、この当時、その様な子供のことば、日常のことばで、聖なる絶対的な神を呼ぶということは絶対にありませんでした。あってはなりませんでした。父は至高の神なのです。しかしイエス様は、あえて、その様な神様を私たちに「アバ父よ」と呼んで、祈るように勧められました。「それくらい安心してリラックスしてあなたの父に親しく語りなさい」という事なのでしょうか。

それにしても、何という素晴らしい特権でしょう。天地万物の創造者であるお方を「お父ちゃん、パパ」と呼ぶことが出来るとは。

あのイサクが献げられる時、父アブラハムの全てを信頼して、お父さんを見つめていたイサクを思い出します。

——— ②「私たちの」 ———

さて、この「父よ」という呼びかけに、次は「私たちの」ということばが続きます。

「私の父よ」ではなく「私たちの父よ」と祈るのです。注意してみると、主の祈りはいつも「私たち」です。例えば「私たちの日ごとの糧を、・・・」「私たちの負い目を・・・」「私たちを試みにあわせないで、・・・」と言った具合に、いつも一人称複数です。

信仰は確かに個人的なものです。私の信仰であり、あなたの信仰です。密室で神様と、一対一で祈ることはとても大切です。確かに、私たちは一人で、神様の前に立つのです。

しかし、まさに一人で神様の前に立つ時、私たちはひとりではないことに気が付きます。

自分は一人ではなく、神の家族の中の一人であることを知らされるのです。

また「私たちの父よ」と、祈る時、自分さえ良ければと言う独りよがり、自分だけが正しいと言う独善が追放されます。天の父に心を開くならば、共に祈る兄弟姉妹たちにも心を開くことになります。

「私たちの」の祈りは、宣教の祈りです。この私たちの祈りが、まず私から始まり、夫婦、家族、隣近所、更に世界へと広がって行ったなら、何と素晴らしいことでしょう。

あなたはどのようにでしょうか。「私の父よ」と祈っていますか？ それとも、「私たちの父よ」と祈っていますか？

——— ③「天にいます」 ———

さて、続けて「主の祈り」は教えます。「父よ」と祈るだけでなく、更に「私たちの父よ」と、祈るだけでなく、「天にいます私たちの父よ」と、祈るようと。

神様は確かに慈愛に満ちた方、私たちに良きものを与えて惜しまない方、私たちの罪を赦して、受け入れて下さるお方です。

しかし、それだけでは、私たちの神概念は偏っています。

神様は「私たちの父」であると共に、「天にいます父」なのです。

確かに「私たちの肉の父」は、どこか頼りない父かも知れません。反発したくなる父かも知れません。尊敬できないかも知れません。いいかげんで、子どもを放っておく父、気まぐれで、虫の居所が悪いと怒鳴り散らす父、子どもを無視してあなどる父、無力な様に見える父。確かに、私たちの「この世の父は」そうなのかも知れません。

——— 天と地を創造された神様 ———

けれども、聖書の神様は「天にいます父」なのです。この広大無限の宇宙を創造する力を持っておられる神様です。更に、永遠から永遠へと存在される方、小鳥にさえずりを与え、どんな造花も及ばない生命あふれた美を創造される方、人間の知恵をもっては量る事のできない絶対者です。

ですから（ガラテヤ 6:7）「思い違いをしてはいけません。神はあなどられるような方ではありません。」 皆さん私たちは、自分の都合の良いように、この大いなる神様を利用しようとしてはいいのでしょうか？ 神は私たちの生活をトラブルから守り、雑用一切を引き受けてくれる「便利屋さん」ではありません。

また、「天にいます」と祈りながら、祈りが聞かれることを初めから期待していない、という事はないのでしょうか？ 残念ですが、それは神様を神様としない態度です。

さて、信仰とは「信じて神を仰ぐ」と書きます。しかし、私たちは、なかなか仰ぐことをしない者かも知れません。でも、時にはそんな地上から目を離して目を天に向けて、限りなく広い天を見上げて見ましょう。その時、地上で嘆いたり、怒ったり、絶望したりしている自分が、何と小さい者であるかが知らされるのです。そして、私たち、しっかりと天を仰ぐならば、宇宙の大きさに気づかされると共に、その宇宙を造り、支配しておられる大いなるお方を知る事ができます。そして、そんな大きな方によって、この私も造られ、愛され、守られて、支えられていることに気づき、限りなき安心と、平安を取り戻すことが出来るのです。ですから私たち、いつも天を、そして創造主を仰ぐ者でありたいと思います。

私たちの信じている神様は、親方日の丸どころか、天にいます神様なのです。

さて、天と地、万物を造られた神様を、ただ仰ぐ者ではなく「私たちの父よ」と、呼べたなら、これも何という幸運でしょうか。それにしても、光の速度は秒速30万キロメートルだそうです、その速度で旅行して天の川に行くのに、何と8万年もかかるそうです。

更にお隣の星雲に行くのに200万年もかかります。そんな大きな宇宙を造られた神様、そんな大きな神様をイエス様は「アバ父よ」と呼びなさい。と言われます。繰り返しますが「お父ちゃん、パパ」と、言うのと同じですね。

ですから私たちは、このことばの素晴らしさをしっかりとかみしめながら、祈る時には天の父なる神様に心から、その名にふさわしい名で呼びかけようではありませんか。

私たちの父は、天にいます父であり、私たちの思いも及ばない計画を持ち、完全な愛と義を持って、私たちを守り養いそだてる事の出来る偉大なる父です。

そして、私たちの祈りに真にこたえる事のできるお方なのです。

(イザヤ 57:15)「いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名が聖である方が、こう仰せられる。『わたしは、高く聖なる所に住み、砕かれた人、へりくだった人とともに住む。』」

(イザヤ 64:1)「ああ、あなたが天を裂いて降りて来られると、山々はあなたの御前で揺れ動きます。」

(イザヤ 64:4)「とこしえから聞いたこともなく、耳にしたこともなく、目を見たこともありません。」(64:8)「しかし、主よ、あなたは私たちの父です。」

それにしても今、多くの人々が、私たちを愛して、私たちのために御子を送って下さった、全天全地、宇宙の創造者なる神様を「アバ父よ、お父さん」と、呼べないのです。

ですから私たちは、父に祈りましょう。「天にいます私たちの父よ」と。